





出張報告

報告日 令和3年12月2日

会派名	民友		
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典		
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議		
用務	松江市議会議員との地域防災に関する懇談		
日時	令和3年11月25日（木） 9:30～10:45		
場所	島根県松江市		
調査項目等	原子力防災等松江市民の受け止めについて		
概要	<p>◆対応者 松江市議会議員 森本秀歳氏、山根 宏氏</p> <p>◆意見交換概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難計画・訓練の状況 ・島根原子力発電所対策特別委員会の状況 		
所感等	<p>【相澤宗一】</p> <p>原子力発電所を立地する都市の議員は、災害時には原子力災害への対応も的確に取らなければならないことについて認識を深められた。</p> <p>風水害、あるいは地震の際はその危険が及ぶ場所から離れる必要があるが、原子力災害においては、単に遠くへ移動するのではなく、屋内にとどまるという選択もときには必要であり、情報の収集と放射線に対する知識の習得は日頃より研鑽しなければならないものと感じた。</p> <p>また、それぞれの議会が持つ原子力の特別委員会について意見交換ができたことも有意義であった。</p> <p>【佐藤和典】</p> <p>松江市議会議員2名と懇談し、松江市とその周辺の原子力防災について調査した。松江市周辺には宍道湖と中海の2つの湖があり、市街地には松江市を北と南に分けている大橋川がある。そのため「水の都」とも呼ばれている反面、水害に悩まされている地域である。島根原子力発電所は、県庁所在地にある唯一の発電所ということから、災害発生時には多くの方が避難することを想定した対応が課題となっている。</p> <p>避難先は住んでいる地域によって、島根県内だけでなく鳥取県や岡山県など複数に分かれる為、国・県・市町村の連携は必須となる。懇談で強く感じたのは、地域の皆さんへの正確でタイムリーな情報提供の必要性である。例えば、原発事故が発生した時にどこ（職場・学校）にいるか、住んでいるか（自宅）によって、即時避難が必要な場合と、屋内退避の方が、移動して避難するよりも安全な時もある。</p> <p>避難計画に完璧はなく、たゆまぬ改善と努力を積み重ねることが実効性を強くするものと感じた。</p>		

出張報告

報告日 令和3年12月2日

会 派 名	民友		
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典		
種 別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究（ <input type="checkbox"/> 行政視察） <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議		
用 務	ユーラス新出雲ウインドファーム（国内最大級の風力発電所）		
日 時	令和3年11月25日（木） 11:30~12:10		
場 所	島根県出雲市		
調査項目等	海岸線における風車群の景観とその影響について		
概 要	<p>◆事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007年2月 着工 ・2009年4月 運転開始 ・発電機基数 26基 ・設備容量 78,000kW (3,000kW×26基) ・電力供給先 中国電力株式会社 ・事業期間 20年間 <p>◆事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間予測発電量 一般家庭約40,000世帯分に相当 ・年間CO₂削減量 約85,000t 		 
所 感 等	<p>【相澤宗一】</p> <p>島根半島西部、出雲市北浜の海岸に突出する地形のため、日本海の上を絶え間なく流れる風が、そこに立つ風車にぶつかり、その風を受けた羽根が大きな音とともに激しく回転をしており、間近にいると恐怖にも似た感覚に陥った。しかし、巨大なエネルギーを生み出すにはそれなりの大きさとしつぱりが必要であり、風車ひとつは小さな出力でも連続して構えることにより、大きなエネルギーに変換できる。ただ、まちの景観とも調和する必要があるため、乱立がいいとは言えない。神話の里としても有名な出雲市だからこそ、「神話の舞台を吹き抜ける風を利用」というキャッチコピーで観光客を引き入れることができる。柏崎市においても「これは」というストーリーを作りたい。</p> <p>【佐藤和典】</p> <p>ユーラス新出雲ウインドファームは、島根半島の先端にあり、海と海に挟まれたような立地である。また、壮大（パンフレットの上空写真で見ると壮大）な風景を予想していたものの、近くを自家用車で通っても26基の風力発電機が、山並みに隠れており、風車自体が余り見えない地形である。「宍道湖景観形成地域」の景観に与える影響を最小限に抑えるとのことで、計画の段階で風車26基中10基の設置位置を変更したことには頷けそうだ。また、山を切り開いたところに立地しており、ふもとの集落内は道路が狭いため、建設時の資材輸送などは困難を極めたものと予想できる。</p> <p>発電量は26基で78000kwと国内最大級の風力発電所であるが、やはり原子力発電と比べると物足りない。一方、風力発電のデメリットである「鳥類への影響」「騒音」「電磁界」の影響は今後も調査を続けていきたい。また、出雲市の産業観光の一つにもなっているため、景観を生かした開発によりもっと観光客を呼び込めるものと感じた。</p>		